Central Weekly

(1/11～1/15)

No. 764

2016年1月8日

セントラル短資株式会社 総合企画部

1. インターバンク市場

12/28～1/8のインターバンク市場は、当座預金残高が250兆円を超える水準で推移した。年末となる12月30日は負債圧縮の動きから調達ニーズが弱く、無担保コールO/N加重平均レートは0.037%まで低下したものの、年明け以降は底堅く推移した。無担保コールO/N物は年末以降、GCレポレートが高止まりしている影響もあり、年明け4日から出合いの中心は0.07%台まで上昇した。週半ばから後半にかけてはGCレポレートの強含みを受け、大手行を中心に0.075～0.076%、3連休を挟んだ8日は0.078%の大手行のビッドに追随する形で地銀・信託・系統より高めのビッドが見られ、0.077～0.079%の出合いが中心となった。ターム物はGCレポレートの上昇や14日の税揚げを見越してか、大手行から1-3W物の大規模な調達が見られた。固定金利方式の共通担保オペは12月29日と1月7日にそれぞれ3M・8,000億円でオファーされた。応札額はそれぞれ1,300億円(期落ち分1,500億円)、800億円(期落ち分600億円)といずれも札割れの結果となった。

1/12～15のインターバンク市場は、引き続きレポレートの高止まりや14日の税揚げを意識した動きが続き、小高く推移することが予想される。主要なイベントは14日のMPC結果発表等が挙げられる。

2. オープン市場

12/28～30の短国市場は、年末で市場参加者が少なく、年内受渡で3Mが▲0.055～▲0.045%で出合った程度と閑散だった。また、一部で予想されていた短国買入オペも見送りとなった。

1/4～8の短国市場は、12月末を越えたことによる現物入替ニーズからか、残存3M以下の銘柄で売り買い気配が見られた。しかし出合いには至らず、週後半の入札待ちの様子見相場となった。一方で、1月の短国買入オペのオファー増額予想があるため、1Y物では買入オペを睨んだ動きから、週後半には▲0.123%の出合いも見られた。

短国の入札は7日に3M物、8日に6M物の入札が実施された。3M物はWI取引で▲0.025%の出合いが見られる中、平均落札利回▲0.0214%・按分落札利回▲0.0162%と、発行額の3,000億円減額やオペ増額予想もあいまって、概ね事前予想通りの堅調な結果となった。セカンダリーは平均利回近辺でまとまった出合いが見られた。6M物はWI取引で少額ながら▲0.08%が出合うなど過熱した状況の中、平均落札利回▲0.0608%・按分落札利回▲0.0425%と平均・按分ともに6M物では過去最低レートを更新する強い入札となった。セカンダリーは▲0.085%から▲0.155%まで買い進まれた。

12/28～30のCP市場は、ノンバンク、石油、鉄鋼、食料品等から大型発行案件が見られ、発行総額は9,300億円程度となったものの、年末の有利子負債圧縮の動きから、償還総額は16,300億円程度となった。年末のCP総発行残高は16兆4,011億円となり、前年比で減少した(2014年12月末の総発行残高は16兆4,465億円)。発行レートは、一部銘柄の過熱が収まり、年明け発行物で上昇となった。

1/4～8のCP市場は、12月末の有利子負債圧縮によるCP発行を控えていた動きの反動もあり、ノンバンク、鉄鋼、石油、建設、商社等から大型発行案件が見られた。週間発行総額は5,500億円程度となったものの、期落ち額も5,600億円と同程度あったため、CP発行残高は16兆円半ばとほぼ横ばいで推移した。発行レートは投資家の短国代替ニーズが無くなったことで、極端に低いレートの発行は見られなくなった。加えて、オペレートや現先レートが高止まりしたことで上昇基調となった。発行レートはa-1+格で0.085～0.09%近辺、a-1格で0.095～0.10%近辺が取引の中心となった。

7日にはCP等買入オペが、前回比2,500億円減額の3,000億円でオファーされた。オファー減額に加え、市場残高が高止まりしていることもあり、結果は平均0.084%・按分0.077%と前回(0.054%・0.048%)から大幅に上昇した。

1/12～15の短国市場は、14日に3M物の入札が実施予定となっており、引き続き堅調な結果が見込まれる。短国買入オペは12日と15日に実施されると見込まれる。CP市場は引き続き発行再開の流れが続くと見られ、発行残高の増加に伴い、発行レートも上昇基調で推移することが予想される。

3. 資金需給および国債等

銀行券は週間で12,400億円程度の還収超見通し。財政等要因は、12日の30Y発行、13日のTB6M発行超過、14日の大幅源泉税揚げ、15日の2Y発行超過等があり、6兆6,100億円程度の揚げ超見通し。以上により、今週の資金需給(日銀調節を除く)は週間で5兆3,700億円程度の資金不足を予想する。国債・借入金(日銀償還は除く)の動きは次の通り。<12日>TB3M;償還41,900億円・発行45,000億円／30Y;発行8,000億円<13日>TB6M;償還13,700億円・発行35,000億円<15日>2Y;償還12,300億円・発行25,000億円／物価連動10Y;発行5,000億円／個人向け3・5・10Y;発行2,300億円・償還4,300億円／交付税特会借入;期日10,500億円・新規10,500億円

2016年	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オ　ペ	期日	新規実行	オペ合計	実質過不足
1/11 (月)			0				0	0
1/12 (火)	3,400	△ 13,100	△ 9,700	全店共通 (固) CP買入 ETF買入	△ 600 △ 100	800 200	300	△ 9,400
1/13 (水)	4,000	△ 25,000	△ 21,000	CP買入 国債買入		3,000 8,900	11,900	△ 9,100
1/14 (木)	3,000	△ 17,000	△ 14,000				0	△ 14,000
1/15 (金)	2,000	△ 11,000	△ 9,000				0	△ 9,000
週 間 合 計	12,400	△ 66,100	△ 53,700		△ 700	12,900	12,200	△ 41,500

(注) 上表の1/12は日銀予想、1/13以降は当社予想。

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
1/11 (月)	成人の日			12月のFRB 労働市場情勢指数
1/12 (火)	11月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 12月の消費動向調査(内閣府 14:00) 12月の景気ウォッチャー調査(内閣府 14:00)			
1/13 (水)	12月のマネーストック(日銀 8:50)	10Y物価連動 5,000億円 1/15発行		米ベージュブック 12月の米財政収支
1/14 (木)	11月の機械受注統計(内閣府 8:50) 12月の企業物価指数(日銀 8:50) 11月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)	TB3M 45,000億円 1/18発行	交付税借入 10,500億円 1/22借入	英中銀MPC結果発表
1/15 (金)	11月のマネタリーサーベイ(日銀 8:50)	流動性供給 3,000億円 1/19発行		11月の米企業在庫 12月の米生産者物価指数 12月の米小売売上高 12月の米鉱工業生産・設備稼働率 1月のミシガン大消費者信頼感指数速報

本資料の内容は、十分信頼し得る情報・データ等に基づいて作成しておりますが、内容の正確性については弊社がこれを保証するものではありません。
掲載内容のタイトル・日時・地域等につきましては、お取引先様各位にて別途ご確認戴きますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。
金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。
セントラル短資株式会社　登録金融機関　関東財務局長（登金）第526号　日本証券業協会加入